

大刀洗町『自分ごと化会議』

地域と障がい福祉のこれから ～住民とともに考える暮らしの課題と解決策～

第2回 次第

日時：令和7年12月20日（土）13:00～16:00

場所：大刀洗町役場 3階大会議室

1. 開会

2. 前回の振り返り
○第1回会議の振り返り

3. 町からの資料説明

4. 議論 ※途中休憩（10分程度）
○第1回欠席者自己紹介
○テーマについての議論

5. 町長あいさつ

6. 事務連絡・アンケート記入

7. 閉会

<今後のスケジュール>

第3回会議：令和8年1月24日（土）午後1時～

第4回会議：令和8年3月7日（日）午後1時～

第2回大刀洗町自分ごと化会議 議事概要

開催日時：令和7年12月20日（土）

開催場所：大刀洗町役場 3階大会議室

出席者：委員 16名

【テーマ】

「地域と障がい福祉のこれから～住民とともに考える暮らしの課題と解決策～」

議題：

1. 前回の振り返りと共有
2. 初参加者の自己紹介
3. 町内の障害福祉施設についての説明
4. 議論・意見交換
5. コーディネーターまとめ

1. 前回の振り返りと共有

第1回会議後のアンケート結果を共有し、参加者の率直な感想を紹介。「障害という言葉自体に難しさを感じる」「接し方が分からず戸惑いがある」といった声がある一方、「高齢になれば誰もが障害を持つことになる」という視点も挙がっており、参加者それぞれの受け止め方があった。

2. 初参加者の自己紹介

今回が初参加の委員が自己紹介し、経験や率直な思いを発言してもらった。主な意見は以下の通り。

- 実母が難病で障害者手帳を所持している。職場でもプライベートでも障害のある方が身近にいる環境で、障害も個性の一つと捉え、特に偏見もなく接することが自分自身の日常。
- これまで障害のある方と接する機会がなく、どう接していいかわからないという戸惑いがある。この会議を通じて議論して学びたい。
- 保育士として働いていたとき、子供たちから障害のある子について「なんであの子はあなの？」と聞かれて、うまく説明ができなかった。今でも説明の仕方を見つけられないままなので、会議で意見交換をして考えていきたい。
- 末っ子が発達障害を持ち、デイサービスを利用している。末っ子を育てる中で自分の考え方が変わり、いまは障害を悪いこととは捉えていない。いろんな人に寄り添えるようになりたいと思って参加した。
- 祖父母の介護を20年近く経験し、現在は発達障害のある2人の子供を育てている。フルタイム勤務をしながらの通院や不登校対応などの苦労があり、他のお母さんはどうしているのか聞いてみたい。
- 仕事で聴覚障害のある方と接する機会がある。「普通はこう」という自分の中の基準を相手に当てはめないよう意識している。当事者がどう思っているのかを知った上で考えないといけないと思っているので、勉強していきたい。
- 小中学校時代は障害のある友人が周りにいたが、進学に伴い関わる機会が減ってしまった。この機会に話を聞いて勉強したい。
- 中学2年生の甥が発達障害で、弟夫婦が悩んでいる様子を見てきた。自身の職場が支援学校からの実習生や就職者を受け入れており、障害のある方が働く姿を身近で見ている。

3. 町内の障害福祉施設についての説明

福祉課より町内の障害福祉施設マップを提示。緑色（大人用）や赤色（児童用）の施設が、住宅街や学校の近くなど、生活の身近な場所に点在していることを確認した。

4. 議論・意見交換

【発達障害の診断と支援の在り方】

- 子どもが発達障害の診断を受けるまで半年以上の待機期間があり、その間は不安が大きく、診断を受けた直後はショックで涙した。先生をはじめ、関わってくれる方が皆さんいい人で救われることが多く、気づいたら子どもの発達障害を隠したいという気持ちはなくなり、受け入れられるようになっていった。
- 最初は障害を持っていることに気づかず、巡回相談がきっかけで診断された。母親なのになんで気づいてあげられなかったんだろうとショックを受けた。
- 近隣で専門的に診ることができる病院が3つしかなく、待機が出てしまう状況になっている。地域で福祉をする枠組みを作りたいと思って個別療養も行っていて、支援を受けさせてほしいという相談が増えている、まずは診察が必要になるので、福祉課や医療機関と連携して対応している。(Unique)
- 保育士として働く中で、同じ診断を受けていてもそれぞれの得意不得意があると感じている。そういった個性にあわせて支援をしていくことが必要。

【「特別視」と「優しさ」の境界線】

- 保育園では障害を持った子を特別視せず一緒に活動しているが、先生がつきっきりになると別の子どもから「〇〇くんばかりずるい」と声が上がる。その状況に応じた説明を子どもが納得できる形ですることは難しい。
- 自分でできることを、こっちがやってあげていると思いついで入ることもある。相手から求められた時や、明らかに困っているときは手を差し伸べた方がいいが、こっち側から押し付けていく必要はないのではないかな。
- 一番大事なことは相手の立場に立ってみること。自分がもし目が見えなかったら、こういう風にされたら怖いだろうと、立ち止まって考えて行動に移す。それをするだけで、お互い過ごしやすくなる。
- 障害を持っている方が付ける「ヘルプマーク」の意味を理解することで、周りも助けられるのではないかな。このマークを広めていくことが行政の役割。

【苦手なことの共有と障害の定義】

苦手を話すことを通じて、障害のある方の立場になって自分ができることは何かを考えるきっかけを作る議論を行った。参加者からの主な意見は以下の通り。

- 暗記することが苦手。覚えることができなくて困っている。
- 数学がすごく苦手で前回のテストで7点を取ってしまった。学習障害などの診断に関係なく本当に苦手だが、日本史が得意なので相殺している。
- 大人数が苦手。個人個人で関わることは良いが、群れることの意味がわからず一人でいる方が楽だと感じる。根本的に集団にいる価値観が合わなくて距離を置いてしまっている。
- 記憶力が年々なくなっていることが今自分の一番の課題。1分前のことが分からなくなることもあり、1年前のことは聞かれても分からなくて困っている。
- 匂いに結構敏感で、人の匂いや動物の匂いで気持ち悪くなる。電車とかバスでは絶対マスクで、口呼吸じゃないとなんか気持ち悪くなる。
- こういう場で話すのが苦手で、当てられたくないくらい。
- 時間を守る。あと5分で間に合うということが多くある。早め早めに行動するのも、かなり頑張らないと難しい。
- 周りが見えていないためによく物にぶつかる。物理的に視野が限られて、気づかないことが多く落ち込むレベルで困っている。
- 人混みがすごく苦手で、本当に気持ち悪くなっちゃうレベル。電車が嫌で人を視界に入れたくないため、アイマスクをするくらい。

- 思ったらこう！と動いてしまうため、人との付き合いで人間関係も困っている。
- ダイエットが苦手。運動しても脳が学習しなくて困っている。
- スマートフォンの使い方が苦手。ヘルパーの仕事をする中で、間違ったらどうしようと不安になってしまう。
- 人前で話すことと、スマートフォンの操作が苦手。今年の7月に機種変更して、使い方が分からなくて困っている。
- 人の名前を覚えることが苦手。全然覚えられなくて仕事で困っている。
- 群れるが苦手。1人の友人と長く付き合っている。掃除、片付けが苦手。家の中で物が消えてしまう。
- 物事を余裕をもって終わらせること。ゴミ出しや課題等はギリギリになってしまうので苦手だと感じている。

5. コーディネーターまとめ

「普通」とは何かは、人によって違うという意見が多く出た。だからこそ、自分の価値観を押し付けないことが大切。人それぞれの価値観はバラバラであっても、「価値観は多様である」という価値観を持っていた方が良いのではないか。障害や苦手の有無に関わらず、多様な人が当たり前で混ざり合う「ごちゃまぜ」の状態こそが、皆が良い生活を送れる社会の姿であるという気づきがあった。

次回（第3回）は、1月24日（土）午後1時より開催予定。